



子どもが不登校のときの、「父親の役割」とは、・・・？

10月に開催する「**不登校対策セミナー**」では、・・・
子どもが不登校のときの、「**父親の役割**」について、お話しします。

不登校事例の多くのケースでは、子どものフォロー役は、主に**母親**が担っています。
しかし、母親は、子どもの養育、食事、洗濯、自分の仕事などもこなさないといけないため、
・・・心や身体が、かなり疲労しておられるケースがあります。
中には、不眠、抑うつ傾向などで、服薬をされていることもあります。

このような状況になると、不登校の改善は、なかなか進まなくなってしまう。
ですから、「父親の役割」を発揮していただくことが、・・・とても重要です。

★アメリカの調査研究をもとに・・・

ところが、日本において、「父親の役割」に関する調査研究は、あまり進んでいません。
そこで、「父親の役割」について、先進的に研究されているアメリカの調査研究をもとに、・・・
子どもが不登校のときの、「父親の役割」について考えてみることにします。

★父親と子どもとの「安定した関係」は、・・・どのようにして築かれるのか？

アメリカにおける、青年期の子どもを対象とした数多くの研究から、・・・
どのように子どもと関わっていくと、父親と子どもとの「**安定した関係**」を
築くことができるのか、・・・分かってきました。



現在、その要因が、3つ、分かっています。(Schoppe-Sullivan et al., 2019)

◆ 1つ目は、父親が子どもと「**時間を多く**」過ごしていること

つまり、子どもと多くの時間を過ごしていると、関係が安定している・・・ということです。
また、「平日」の子どもとのふれあいは、・・・
短い時間であっても、子どもとの関係の安定につながっていることも分かっています。

◆ 2つ目は、父親が、子どもに対して「**応答的**」であること

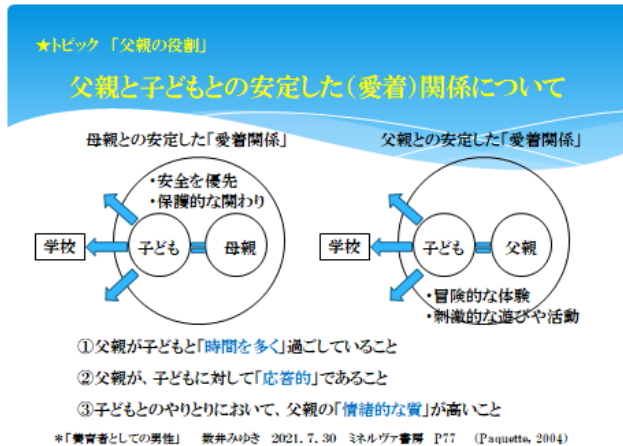
つまり、一方的ではなく、指示的ではなく、命令的ではない・・・ということです。
「双方向的」、「対等的」、「共感的」と、言い換えてよいかも知れません。

◆ 3つ目は、子どもとのやりとりにおいて、父親の「**情緒的な質**」が高いこと

例えば、父親の気持ちが安定している、落ち着きがある、いつも冷静である・・・などです。

★「安定した関係」が築かれると、・・・子どもは、どう行動するのか？

そのようにして築かれた、父親と子どもとの「安定した関係」を土台とし、**父親は**、子どもに、「**冒険的な経験**」や、「**刺激的な遊びや活動**」をさせようとするのですが、そのような場面で、父親は、子どもが「**安心**」して活動できるようにします。(スライド右図)



← 「不登校対策セミナー」プレゼン資料

すると、**子どもは**、父親を心の拠り所とし、物事に進んでチャレンジするようになります。
このような主体的な行動を、心理学では、「**探索行動**」と呼んでいます。(注1)

スライド右図の**青い矢印**が、・・・「探索行動」を示しています。

この「探索行動」には、・・・学校に進んで登校するという行動も含まれます。(重要) (注2)

さらに、もし困ったことが起これば、・・・

子どもは、父親を頼りとして気持ちを立て直し、もう一度、物事にチャレンジしてみようとしています。
しかし、その時は、はじめのチャレンジに比べ、より質の高いチャレンジが展開されます。

・・・と、アメリカの心理学者、パケット・ダニエル(2000)は述べています。

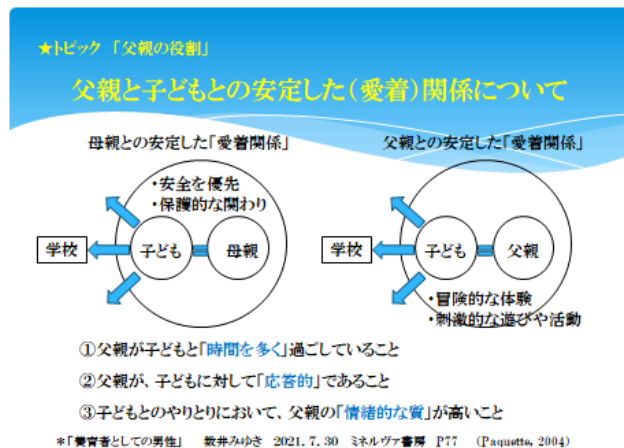
注1 「アタッチメント障害とその治療」 カール・ハインツ・ブリッシュ 著 数井みゆき 監訳 誠信書房 2008.5.30
・「探索行動」とは、「自らの世界を拡大させる健康的な心理社会的発達」のことを言います。

注2 「探索行動」には、例えば、・・・
・勉強をする
・友だちと話す・遊ぶ、
・運動をする
・ギター、ピアノなどの趣味活動をする・・・などの様々な行動が含まれます。
「探索行動」に共通することは、全て発達の、健康的、建設的であるということです。

★父親との「安定した関係」が、・・・再登校を含む「探索行動」を起こす原動力となる！

上述したパケット・ダニエルの指摘をもとに、「**父親の役割**」ということに、改めて着目してみると、父親との「**安定した関係**」は、・・・

子どもの主体的な「探索行動」を生み出す方向に、少なからず影響していることが考えられます。
(スライド右図の青い矢印)



← 「不登校対策セミナー」プレゼン資料
(P2 と同じスライドです)

子どもの立場に置き換えてみると、どうやら、・・・
子どもは、・・・父親を、・・・

自分が「探索行動」を起こすときの「**モデル**」として捉えているのではないかと、私は考えます。
つまり、「**お父さんなら、きっと、こんな風に行動するだろう**」といった感覚・イメージで！

このように考えてみると、**子どもの心を学校につなげていくためには、・・・**

父親と子どもの「**安定した関係**」が、いかに重要であるかが分かってきます。

要は、そのような関係を積極的に築いていくことが、・・・

子どもが不登校のときの、「**父親の役割**」と言ってよいと、・・・私は考えます。(注3)

文責 西村明倫 不登校カウンセリン&セラピー「クローバー」代表

公益社団法人日本心理学会認定心理士
一般社団法人日本 TFT 協会診断レベルセラピスト
メンタル心理カウンセラー

注3 母親には、・・・大切な「**母親の役割**」があります。(スライド左図)
それぞれの役割をフルに発揮し、相互補完的に子どもと関わっていくことで、不登校の改善が、より進みやすくなると考えられます。